

令和2年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492601628	事業の開始年月日	令和2年3月1日
		指定年月日	令和2年3月1日
法人名	社会福祉法人 博愛福祉会		
事業所名	ゆとり庵麻溝 グループホーム		
所在地	(〒252-0335) 神奈川県相模原市南区下溝1980-2		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和3年2月20日	評価結果 市町村受理日	令和3年5月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>看護小規模多機能・訪問看護ステーション併設の為、インシュリン注射が必要な方の入所が可能になっています。</p> <p>自然が多く静かな環境で、1日中リビングには陽が差し込み、利用者も職員も、その人らしさを大切にしている施設です。</p>
---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年3月15日	評価機関 評価決定日	令和3年5月24日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> 事業所は、JR相模線の「原当麻」駅から徒歩10分程の閑静な住宅街に位置している。付近には公園があり、小さな川が流れ、自然豊かな環境となっている。コロナ禍の令和2年3月に開設された、木造2階建ての建物で、1、2階の2ユニットのグループホームである。同一の社会福祉法人が運営する、看護小規模多機能型居宅介護・訪問看護ステーション・居宅介護支援の事業所を併設している。</p> <p><b>【併設事業所との連携と介護記録システムの活用】</b> 併設する同一法人の看護小規模多機能型居宅介護事業所とは、防災訓練やAED研修を合同で行っている。看護師に、医療関係や看取りの研修の講師を務めてもらっている他、日々の医療面からの指導をしてもらっている。また、グループホームの看取り体制の整備に向け、豊富な看取り経験に基づき支援してもらっている。訪問看護ステーションの看護師が、インシュリン注射の関係で毎日、朝昼晩の3回訪問している。併設のため、緊急時は24時間すぐに対応可能な、安心できる体制が整備されている。 タブレットやパソコンでの介護記録システムの活用で、介護記録の他、医療記録や、排泄・入浴介助などの記録について、記録作業の削減、記録内容の均質化、情報共有を図っている。また、写真データも取り込める他、1日の流れが把握でき、併設事業所との連携と共に効果的な運営に貢献している。</p> <p><b>【身体拘束廃止への取り組み】</b> 身体拘束適正化のための指針を定め、身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催している。委員会では、前回の振り返り、身体拘束の有無などの現況確認、事例の検討を行い、ケアの質の向上に繋げている。身体拘束排除マニュアルを整備し、職員には、高齢者虐待防止・身体拘束廃止研修を年2回実施して、理解を深めている。管理者は、職員の不適切な言動について、気付いたその場で指導するなど、意欲的に取り組んでいる。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ゆとり庵麻溝グループホーム
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設前に職員全員で理念を作り玄関や事務所に貼り出し共有し実践できるよう努めている。	開設時に職員が話し合っって策定した、事業所理念「私たちは、『ひとりひとりの気持ちに寄り添います』『その人らしさを大切にします』『季節を感じることを大事にします』」は、玄関や事務所に掲示して周知している他、会議などで確認している。また、グループ基本方針を毎月の法人の研修で確認している。職員は、事業所理念に基づき、その人らしさを大切にして楽しくケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設前は自治会の会合に参加していたが、コロナにより地域との交流ができなくなっている。	自治会の回覧板や、隣家のオーナーから地域の情報を得ている。散歩の時に、地域住民と挨拶して交流している。4月には、オンラインで地域の音楽サークルの演奏を聞き、交流する企画がある。新型コロナ禍終息後は、地域の祭りやラジオ体操への参加、事業所の秋祭りへの地域住民や子どもの招待を考えている。また、傾聴・フラダンスのボランティアや、中学生の職業体験の受け入れも考えている。	新型コロナ禍で、本格的な地域交流は行えていませんが、実施したいことは明確になっています。終息後の実現が期待されます。

3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の方の交流の場になり、相談業務など行えるようになればよいと考えているがコロナ終息後の課題になっている。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>コロナにより、施設で会議を開くことができない為、書面でのお知らせになっている。</p>	<p>運営推進会議は、2か月ごとに家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センターの職員、オーナーをメンバーとして開催することになっている。今年度は、新型コロナ禍で開催できないため、2か月に1回「事業所の状況報告」として、利用者・職員の状況、事故報告、活動報告などを、運営推進会議のメンバーに送付している。会議では、事業所の状況報告の他、意見交換を行う予定である。</p>	<p>新型コロナ禍で、開設以来、事業所に参集しての運営推進会議は行えていませんが、参加メンバーを明確にして状況報告は行っています。開催が可能となった段階で、有意義な会議を開催することが期待されます。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>開設前、施設の広報で相模原全域の包括を回り、わからないことは高齢政策課に相談しながら運営を進めている。</p>	<p>区の高齢・障害者相談課からは、利用者の要介護認定更新手続代行で市役所を訪問した際に、助言や指導を受けている。生活支援課とは、電話で生活保護受給者の状況に関する情報共有や相談をしている。今年度は、マスク、消毒液、フェイスシールド、手袋などの在庫管理などについて、市や県などと連絡を密に取り合っている。在庫の補給として、市の職員がビニール手袋を持参してくれた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に1回開催し、職員に内容を周知し、研修も行っている。施設内の身体拘束はゼロである。	身体拘束適正化のための指針を定め、身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催している。委員会では、前回の振り返り、身体拘束の有無などの現況確認、事例の検討を行い、ケアの質の向上に繋げている。職員には、高齢者虐待防止・身体拘束廃止研修を年2回実施して、理解を深めている。玄関、ユニットの出入り口は施錠していない。外出願望の強い利用者には、職員が付き添い対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレスチェック実施。虐待についての研修を行い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修で制度を学び、必要な方には後見人がいて、連携をとり支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行い、十分な理解ができるように説明し同意を得ている。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族との連絡は管理者がこまめにとっているため、信頼関係を築けていると思われる。面会時には職員に要望など話せる関係性である。</p>	<p>家族の意見・要望は、秋の祭りなど家族の参加する行事の他、面会、ご意見箱、電話連絡やメールで聞き出している。働いている家族も多いことから、メール連絡が中心となっている。新型コロナ終息後は、行事の後に家族懇談会を実施する予定である。管理者は、家族に心配事があれば言って欲しいと伝え、意見・要望を聞き出すようにしている。家族から「利用者を外出させたい」という要望があり、家族と共に外出に出掛けた利用者がある。</p>	
----	---	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議では職員が発言しやすい環境で、なんでも言える場になっている。個別での相談もしやすいように常にコミュニケーションをとっている。	職員の意見・提案は、管理者が、日々の会話、毎月のフロア会議や、適宜実施する個人面談で聞いている。また、フロアリーダーとも連携して把握に努め、運営に反映している。法人が年2回アンケートを実施して、職員の希望や意見などを聞いている。職員の意見で、秋祭り・花火大会などの行事や、ホットプレートで焼肉・焼きそば・餃子・ホットケーキを作る食事レクリエーションを実施した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の支援、外部研修への参加をすすめ、向上心を持てるようにしている。リーダーへの昇進など来期は予定している。残業はほぼなく、生活に合わせて休みを調整するよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オープン前の研修や、他施設での実習、月1回の研修を開催し、経験者が未経験の職員に指導していく関係性はできている。		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>オープン前より、他施設の見学に行き管理者と情報交換したり、見学に来てもらったりして交流を行っている。最近では交流はない。</p>		
----	--	--	---	--	--



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時に情報を収集できるように、家族に本人のことが詳しくわかるように「本人の生活史」を書いて頂いている。本人面接では困りごとを聞いてプラン作りに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、相談時に困りごとを聞き取り、入所後の様子をこまめに伝え、家族が安心できるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時は、今までの経緯をお聞きし、グループホームで良いのか、もう少し在宅で頑張れるかを検討し、他のサービスを提案することもある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは行っていただき、できない部分をお手伝いするようにし、生活の中で役割を持つよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が安心できるように、ご様子などはこまめに伝え、家族の力が必要な時は、面会にきてもらい、今までの関係性を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との交流が継続できるように 外食や墓参りなど行けるように 支援している。	入居時のアセスメントや家族からの情報で、利用者の生活歴や馴染みの関係を把握している。新型コロナ禍で、友人や知人の訪問はないが、電話や手紙の取次ぎ支援は行っている。利用者に馴染みの新聞の購読支援や、家族が持参する馴染みの漬物やイチゴ、日本酒などの取り次ぎを行っている。趣味の塗り絵を継続している利用者もいる。喫煙者には喫煙所まで寄り添い支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流ができるように 食席を移動したり、会話が楽しめるよう職員が間に入るなどして環境を整えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方はいるが、家族からの連絡もないので、こちらからは連絡していないが、相談があれば支援していく。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お聞きしても明確に伝えられる方はいないが、何かを決める時は意思を確認している。	職員は、入居前に自宅や病院などを訪問して、利用者・家族から暮らし方の希望や意向を聞いている。入居後は、日頃の会話や利用者間の会話などから、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、家族からの情報や利用者の行動、表情から推測し、支援に繋げている。把握した情報は、介護記録システムの総合ケース記録や、申し送りノートで共有してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族やサービス責任者に情報をもらい把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や以前のケアマネなどに聞いて情報収集して把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時と毎月のカンファレンスにより介護計画をたて振り返りしている。	介護計画は、6か月ごとのアセスメントと毎月のモニタリングを基に、カンファレンスを行い、利用者・家族の要望と医療関係者の意見を反映して作成している。短期目標は6か月、長期目標は1年ごとに見直しているが、状態により随時	

				見直すこともある。計画は、アセスメント表と一緒にファイルして随時確認できるようにしている。介護記録は、医療情報や排泄・入浴介助なども含め、総合ケース記録で共有している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録には発語をそのまま記入したり、変化があれば赤字で申し送りし、ケアマネが介護計画の見直しが必要かどうか検討し職員に周知してケアの統一に努めている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所時はできていたインシュリン注射ができなくなり、今は併設の訪問看護に依頼している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握しているが、コロナにより協働できていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	糖尿病などで、長い付き合いの先生との関係を継続されるご家族もいるが支援している。	利用者全員が、24時間オンコール体制の協力医（内科）をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受診している。診察結果は、医師の指示などを総合ケース記録に入力し、情報共有している。歯科は、希望者が毎週の訪問診療を受診している。糖尿病や眼科など専門医の通院は、家族が付き添っている。受診結果は、職員が家族から聞き取り、総合ケース記録に入力し、情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化あれば訪問のナースに連絡し指示を仰いでいる。併設の看多機ナースにも体調変化時などは相談することが多く適切なアドバイスをもらっている。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は訪問医から紹介状を書いてもらい、すぐに情報を伝えることができている。入院後は相談員と連絡を取り今後の相談を行っている。病院からの入所の場合は、その後の様子を手紙で伝えたりしている。</p>		
----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの体制を作り、加算をとることが次年度の課題である。指針や対応を作成している途中である。	看取り体制の構築に向け、看取りに関する指針や、看取り介護同意書などの整備を進めている。体制の構築にあたり、看取り経験の豊富な併設の看護小規模多機能型居宅介護事業所に相談し、支援してもらっている。また、協力医にも看取りを実施することを相談し、理解を得ている。開設時に、看護師を講師に迎え看取り研修を実施している。近々、行政に看取り介護加算の届出を行う予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修でAEDの使い方や、緊急時の対応を学んでいる。オープニング時だけなので、新しい職員を対象に再度行う必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は行っているが、コロナ禍で地域の方との連携はできていない。	11月と3月に、併設の看護小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、防災訓練を実施している。3月の訓練には消防署が立ち会っている。地震を想定した訓練は実施しているが、夜間想定訓練は実施できていない。災害用備品の食料と飲料水は、3月中に整備する予定である。	夜間想定を含む防災訓練を計画的に、年2回実施することが期待されます。また、非常用備品が整備された段階で、リストに基づく管理を行うことが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを忘れず、基本は丁寧な言葉で声かけしている。ちゃん付けなどは、禁止である。	職員は、開設時に接遇や、個人情報保護について学んでいる。記録は、タブレットの介護記録システムで行っているため、利用者の目に触れることはない。居室の掃除で入室する時は、利用者に声をかけてから行っている。管理者は、職員が不適切な言動をしたり、利用者を「～ちゃん」と呼んだりした時には、都度指導している。介護記録システムへのログインは、端末本体と個人別の2段階のパスワードで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から発信できない方には、気持ちを聞いたり、様子を見て判断したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	食事の時間は決めているが、日々の生活は個人のペースを心掛けている。みんなで一緒に体操を行う時間も設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや整髪などは毎日行っているが、おしゃれを楽しめる環境はあまり整っていない。		



40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理は簡単な準備を利用者で行い、食器拭き、洗濯干しや掃除など生活リハビリを毎日行ってもらっている。</p>	<p>食材は、職員が週3回スーパーに買い出しに行っている。料理の得意な職員が作成した献立に基づき、職員と利用者が一緒に調理している。利用者は、盛り付けや、テーブル拭き、食器拭きも手伝っている。季節行事の際は、その行事にちなんだ料理を提供している。誕生日会は、好みの食事やケーキで祝っている。ピザ、寿司の出前や、ホットプレートを使用した各種食事レクリエーションなども楽しんでいる。</p>	
----	----	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の嗜好を把握し、身体にあった食事量を提供して完食できることを大事にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、週1回訪問歯科によるケアも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間睡眠を優先し、パットを使用してもらったり、立ち上がりが困難な方でも2人対応でトイレに座って排便してもらうよう努めている。	排泄は、総合ケース記録で排泄パターンや特徴を把握し、利用者の様子や仕草をとらえてトイレ誘導している。誘導の際は小声で話しかけるなど羞恥心に配慮している。失敗した場合は、周りに気づかれないように対応している。夜間対応は、基本は睡眠優先としているが、定時誘導など個人の特性に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には毎日牛乳を提供し、便困解消しない時には下剤を服用してもらっている。長芋や飲むヨーグルトなど便秘に良いものを献立に入れている。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日は決まっているが、入りたくない時は翌日に変更したり、時間も希望を聞いて入って頂いている。</p>	<p>入浴は、原則週2回、利用者が希望する入浴時間や曜日に気持ちよく入浴できるようにしている。入浴を好まない利用者には、時間や曜日、担当者の変更で対応している。入浴しないという意思も尊重し、無理に入浴してもらうことはしない。体調の悪い利用者は、清拭で対応している。浴室の入り口には銭湯に見立て、のれんを掛けている。利用者は、職員との会話や入浴剤、菖蒲湯や柚子湯を楽しんでいる。同性介助にも対応している。</p>	
----	----	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんど日中は居室で休む方はいないが、体調不良の時などは声かけし休んで頂いている。夜間良眠できるように日中は活動的に生活してもらえよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬セットは2名で確認し、誤薬のないよう声を出して提供している。薬の内容も周知し、命に関わることだと常に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お好きなことが楽しめるように嗜好を把握し提供している。麻雀・将棋・塗り絵・カラオケ・ビデオ体操など		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ中は外出を控えているが、施設の周辺への散歩や裏庭での日光浴や喫煙は支援している。	職員と利用者が一対一で、近隣のコンビニなどへ散歩に出かけている。車椅子の利用者は、玄関先や駐車場、裏庭で外気浴や日光浴を楽しんでいる。新型コロナ終息後は、季節に応じて初詣や、花見、紅葉狩り、フードコートなどへの外出レクリエーションを行う予定である。利用者の外出歴を総合ケース記録で把握し、偏りがないようにしている。家族の支援で、墓参りや、外食、通院に出かける利用者がいる。	

50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、お金や高価な物の持ち込みは控えている。		
----	---	------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人と手紙のやり取りをされている方がいるので、投函のお手伝いをしている。息子様の声が聞きたい方には、お休みの日に電話を繋いで話してもらうことがある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季がわかるように壁にカレンダーや装飾をして、食席は陽が入るので植物を育て鑑賞できるようにしている。周りは建物がないので静かな環境である。	共有空間は、車椅子の導線や居間の使いやすさを考えテーブルを配置している。利用者が献立を記載したホワイトボードが、生活感を醸し出している。温度・湿度管理は、温度・湿度計を参考に、職員がエアコンと加湿器を調整して行っている。リビングの壁には、利用者と職員が作成した作品を飾り付けている。クリスマスや正月など、毎月季節に合ったものを飾り付けている。水耕栽培のアマリリス・ポインセチアや、観葉植物を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の他に、ソファが2つあるので、ひとりになりたい時に使用して頂いている。		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には自宅から持参された時計や家族の写真が飾ってあり、自分で作成した作品を並べていたり、各部屋にはその人らしきが見える。</p>	<p>居室には、ベッド、エアコン、チェスト、クローゼット、照明器具、カーテンの他、スタッフコールも備え付けられている。テレビ、ぬいぐるみ、時計、ハーモニカなどの馴染みの品や、家族の写真、位牌、利用者が製作した作品、誕生日会でもらった手作りカードなどの思い出の品が持ち込まれ、個性豊かな居室になっている。安全対策として家族の同意を得て、人感センサーを設置している利用者がいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>階段は幅が広く、安全に昇降できるのでリハビリになり、トイレや居室にはわかりやすくマークや記名がしてある。</p>		

事業所名	ゆとり庵麻溝グループホーム
ユニット名	わかば

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設前に職員全員で理念を作り玄関や事務所に貼り出し共有し実践できるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設前は自治会の会合に参加していたが、コロナにより地域との交流ができなくなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の交流の場になり、相談業務など行えるようになればよいと考えているがコロナ終息後の課題になっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナにより、施設で会議を開くことができない為、書面でのお知らせになっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設前、施設の広報で相模原全域の包括を回り、わからないことは高齢政策課に相談しながら運営を進めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に1回開催し、職員に内容を周知し、研修も行っている。施設内の身体拘束はゼロである。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレスチェック実施。虐待についての研修を行い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修で制度を学び、必要な方には後見人がいて、連携をとり支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行い、十分な理解ができるように説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との連絡は管理者がこまめにとっているため、信頼関係を築けていると思われる。面会時には職員に要望など話せる関係性である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議では職員が発言しやすい環境で、なんでも言える場になっている。個別での相談もしやすいように常にコミュニケーションをとっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の支援、外部研修への参加をすすめ、向上心を持てるようにしている。リーダーへの昇進など来期は予定している。残業はほぼなく、生活に合わせて休みを調整するよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オープン前の研修や、他施設での実習、月1回の研修を開催し、経験者が未経験の職員に指導していく関係性はできている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	オープン前より、他施設の見学に行き管理者と情報交換したり、見学に来てもらったりして交流を行っている。最近では交流はない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時に情報を収集できるように、家族に本人のことが詳しくわかるように「本人の生活史」を書いて頂いている。本人面接では困りごとを聞いてプラン作りに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、相談時に困りごとを聞き取り、入所後の様子をこまめに伝え、家族が安心できるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時は、今までの経緯をお聞きし、グループホームで良いのか、もう少し在宅で頑張れるかを検討し、他のサービスを提案することもある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることは行っていただき、できない部分をお手伝いするようにし、生活の中で役割を持つよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が安心できるように、ご様子などはこまめに伝え、家族の力が必要な時は、面会にきてもらい、今までの関係性を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との交流が継続できるように 外食や墓参りなど行けるように 支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流ができるように 食席を移動したり、会話が楽しめるよう職員が間に入るなどして環境を整えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方はいるが、家族からの連絡もないので、こちらからは連絡していないが、相談があれば支援していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お聞きしても明確に伝えられる方はいないが、何かを決める時は意思を確認している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族やサービス責任者に情報をもらい把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や以前のケアマネなどに聞いて情報収集して把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時と毎月のカンファレンスにより介護計画をたて振り返りしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録には発語をそのまま記入したり、変化があれば赤字で申し送りし、ケアマネが介護計画の見直しが必要かどうか検討し職員に周知してケアの統一に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所時はできていたインシュリン注射ができなくなり、今は併設の訪問看護に依頼している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握しているが、コロナにより協働できていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	糖尿病などで、長い付き合いの先生との関係を継続されるご家族もいるが支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化あれば訪問のナースに連絡し指示を仰いでいる。併設の看多機ナースにも体調変化時などは相談することが多く適切なアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は訪問医から紹介状を書いてもらい、すぐに情報を伝えることができている。入院後は相談員と連絡をとり今後の相談を行っている。病院からの入所の場合は、その後の様子を手紙で伝えたりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの体制を作り、加算をとることが次年度の課題である。指針や対応を作成している途中である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修でAEDの使い方や、緊急時の対応を学んでいる。オープニング時だけなので、新しい職員を対象に再度行う必要がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は行っているが、コロナ禍で地域の方との連携はできていない。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを忘れず、基本は丁寧な言葉で声かけしている。ちゃん付けなどは、禁止である。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から発信できない方には、気持ちを聞いたり、様子を見て判断したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	食事の時間は決めているが、日々の生活は個人のペースを心掛けている。みんなで一緒に体操を行う時間も設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや整髪などは毎日行っているが、おしゃれを楽しめる環境はあまり整っていない。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は簡単な準備を利用者で行い、食器拭き、洗濯干しや掃除など生活リハビリを毎日行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の嗜好を把握し、身体にあった食事量を提供して完食できることを大事にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、週1回訪問歯科によるケアも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間睡眠を優先し、パットを使用してもらったり、立ち上がりが困難な方でも2人対応でトイレに座って排便してもらうよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には毎日牛乳を提供し、便困解消しない時には下剤を服用してもらっている。長芋や飲むヨーグルトなど便秘に良いものを献立に入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、入りたくない時は翌日に変更したり、時間も希望を聞いて入って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんど日中は居室で休む方はいないが、体調不良の時などは声かけし休んで頂いている。夜間良眠できるように日中は活動的に生活してもらえよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬セットは2名で確認し、誤薬のないよう声を出して提供している。薬の内容も周知し、命に関わることだと常に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お好きなことが楽しめるように嗜好を把握し提供している。麻雀・将棋・塗り絵・カラオケ・ビデオ体操など		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ中は外出を控えているが、施設の周辺への散歩や裏庭での日光浴や喫煙は支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、お金や高価な物の持ち込みは控えて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人と手紙のやり取りをされている方がいるので、投函のお手伝いをしている。息子様の声が聞きたい方には、お休みの日に電話を繋いで話してもらうことがある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季がわかるように壁にカレンダーや装飾をして、食席は陽が入るので植物を育て鑑賞できるようにしている。周りは建物が無いので静かな環境である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の他に、ソファが2つあるので、ひとりになりたい時に使用して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅から持参された時計や家族の写真が飾ってあり、自分で作成した作品を並べていたり、各部屋にはその人らしさが見える。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段は幅が広く、安全に昇降できるのでリハビリになり、トイレや居室にはわかりやすくマークや記名がしてある。		

# 目標達成計画

事業所名 ゆとり庵麻溝グループホーム

作成日 2021.5.31

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策の中に コロナ感染症対策も 追加しサービスの継続 ができる対策を上げ なければならぬ。	感染症委員を 作り、研修など 行って、予防に努める。	・コロナ発生時の コミュニケーションや 他の災害時の訓練 を実施する。	1年以内
2	2	地域交流できるよう 工夫が必要である。 (コロナ禍であるが)	Zoomなどで 外部と交流する。	・面会も、運営推進 会議も、Zoomを 活用できるようにする。 ・オンラインでの交流が できるサークルを探す。	1年以内
3	33	看取り体制を しっかり整える。	看取りについて 家族と話す機会を 作る。	・職員研修で看取り について学ぶ。 ・加算の取得 ・書類の準備など	1年以内
4	4	運営推進会議が 書面でのお知らせ とになっている。	書面であっても 一方的ではなく 意見のやりとりが できるものにする。	・書式の工夫。	1年以内
5	10	お金を預けたいと 家族からの意見あり。 (カット代など)	家族の負担を 軽減する。	預かり金ができる しくみを作る。	1年以内

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。